

令和4年度

安曇野市 協働事業事例集

令和5年3月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・複雑化しています。市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくためには、市民や区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成26年3月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」（以下、「協働推進計画」という。）を策定、また、平成29年4月には「安曇野市自治基本条例」の施行、平成31年3月に第2次協働推進計画の策定と、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、令和4年度に各部局で協働事業として実施された事業の情報を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成するものです。

2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）


（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、農業協同組合等

令和4年度実施 個別協働事業(全45事業)

ページ	R4 新規	事業名	協働の相手方	事業担当課	
3	新	「やさしい日本語」講座	安曇野市国際交流協会	人権共生課	
4	新	親子で参加!!世界を知ろう、触れ合おう!ベトナム編			
5	新	世界を知ろう、触れ合おう!ゲルを体験、モンゴルの風			
6		男女共同参画週間パネル展示	安曇野市男女共同参画推進会議		
7		女性に対する暴力をなくす運動			
8		貞享義民記念館展示「安曇野から考える人権展」	松本人権擁護委員協議会安曇野部会 安曇野市男女共同参画推進会議		
9		2022“世界にやさしい安曇野”へ～ 日本語deスピーチ大会&対話会	あづみの国際化ネットワーク		
10	新	外国人市民会議			
11		多文化共生意見交換会2022			
12	新	安曇野市共生社会づくりフォーラム2022	安曇野市共生社会づくりフォーラム実行委員会		
13		ホンデリングデー	主催:認定NPO法人長野犯罪被害者支援センター 共催:松本人権擁護委員協議会安曇野部会、 安曇野地区保護司会		
14	新	官民協働事業・イオン豊科店「わが街NAVI」	イオン豊科店、(株)サイネックス		秘書広報課
15		光城山1000人SAKURAプロジェクト	光城山1000人SAKURAプロジェクト		地域づくり課
16		アルプス花街道事業	アルプス花街道実行委員会		
17		あづみの市民活動フェスタ2022	市民活動フェスタ実行チーム		
18		ゆるつな	ゆるつな運営チーム		
19		ふるさと夏祭り	ふるさと夏祭り実行委員会		
20		信州ふるさとの道ふれあい事業(アダプトシステム)	岩原ひまわりクラブ		
21		安曇野明科あやめまつり	あやめまつり実行委員会		
22		安曇野環境フェア	安曇野環境フェア実行委員会	環境課	
23		不用食器リサイクル活動	不用食器リサイクル実行委員会		
24		明科駅周辺まちあるき空き家・空き店舗見学会	明科駅周辺まちづくり委員会	移住定住推進課	
25	新	豊科北中学校 総合的な学習 「空家を生かしたまちづくり」～探求的に地域を学ぶ～	NEX-T安曇野		
26		安曇野玉ねぎ祭り	安曇野玉ねぎ祭り実行委員会参加団体(者)	農政課	
27		里山再生計画推進事業	市民、事業者	耕地林務課	
28	新	「あづみ野てらす」事業等	観光復興イベント実行委員会	観光課	
29		第36回早春賦まつり	早春賦まつり実行委員会		
30		信州安曇野ロゲイニング	信州安曇野ロゲイニング実行委員会		
31		第15回安曇野花火	安曇野花火実行委員会		
32		安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト		
33		安曇野 APPLE HALLOWEEN	JR東日本長野支社	スポーツ推進課	
34		第8回信州安曇野ハーフマラソン事業	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会		
35	新	安曇野市コミュニティスクール事業	地域住民、各種ボランティア団体等	学校教育課	
36		令和5年安曇野市二十歳の集い	安曇野市二十歳の集い実行委員会	生涯学習課	
37		安曇野市総合芸術展	安曇野市総合芸術展実行委員会		
38		童謡祭り	童謡祭り実行委員会		
39		いいまちサロン	明科いいまちつくろうかい!!		
40		三郷地域市民文化産業展・菊花展	三郷地域文化産業展実行委員会		
41		堀金のお宝発見講座	ふるさと堀金を楽しむ会	文化課	
42		安曇野市ミュージアム活性化事業	安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会		
43		第31回信州安曇野能楽鑑賞会	信州安曇野薪能実行委員会		
44		安曇野文化刊行事業	安曇野文化刊行委員会		
45		あづみの公園早春賦音楽祭	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会		
46		安曇野さんぽ市2022	安曇野さんぽ市実行委員会		
47		安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会		

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		「やさしい日本語」講座	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	多文化共生に取り組む団体や市職員が「やさしい日本語」の有効性や具体的な言い換え等を学び、情報発信等での活用に繋げる。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	市役所本庁舎 大会議室	事業期間	令和4年4月12日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい日本語とは ・具体的な言い換え（書き換え）例 ・行政における使用事例の紹介 		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	内容の検討、会場準備及び片付け
	相手側	司会進行
	市側	庁内への周知

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	「やさしい日本語」について広く普及を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		親子で参加!!世界を知ろう、触れ合おう! ベトナム編	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等を講師とする体験型の講座を実施し、多文化共生の理解促進を図る。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和4年7月27日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの文化の紹介 ・バインミー（ベトナム風サンドイッチ）の調理 		

【協働の役割分担】

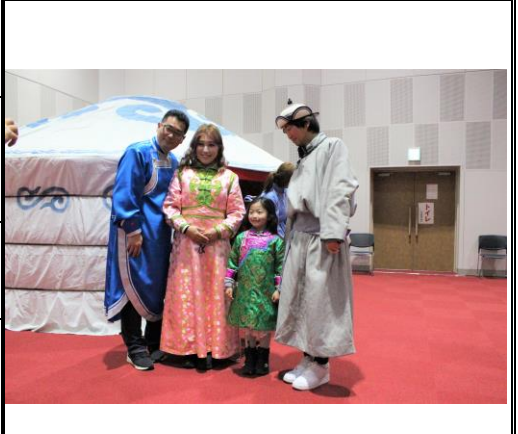
役割 分担	一緒の取組	広報、会場準備及び片付け
	相手側	受付等
	市側	講師打合せ、資料作成、必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	親子で参加できる体験型の講座として、国やテーマを変えて継続的に取り組む。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		世界を知ろう、触れ合おう！ ゲルを体験、モンゴルの風	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等を講師とする体験型の講座を実施し、多文化共生の理解促進を図る。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和5年1月15日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの文化の紹介 ・ゲル（移動式住居）、民族衣装等の体験 		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	講師打合せ、広報、会場準備及び片付け
	相手側	受付等
	市側	必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	親子で参加できる体験型の講座として、国やテーマを変えて継続的に取り組む。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		男女共同参画週間パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	



男女共同参画週間に展示したパネル

【事業の概要】

取組の背景・課題	「家庭生活」「職場」「地域」における男女の平等感が低い		
事業の目的	パネルを展示することで、来庁する市民に関心を持ってもらい、併せて共生社会づくり計画策定の機運醸成のため。		
成果目標	男女共同参画週間や安曇野市の現状（男女の平等感の低さ）を知ってもらう		
実施場所	本庁舎 1F 西ロビー	事業期間	令和4年6月10日(金)～30日(木)
事業の概要	令和3年度に実施した男女共同参画・多文化共生アンケートの結果で課題となった男女の平等感及び「女性の活躍を加速する男性リーダーの会」への市長参加のパネルを作成し、本庁舎1階西ロビーに展示する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	展示
	相手側	
	市側	事務（展示準備）

【実施結果】

成果目標の達成状況	来庁された市民の方へ男女共同参画に関する現状を知ってもらうきっかけとなった
協働による効果	男女共同参画に関する課題を共有することができ、地域での展示等へ活用ができた
課題・改善点	・ 展示そのものを見てもらえる工夫が必要 ・ 展示内容も、市民の方が興味を持ってもらいやすく、わかりやすい内容にする

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		女性に対する暴力をなくす運動	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	



中央図書館の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和2年度から令和4年度の3年間は「性犯罪・性暴力対策の集中強化期間」とされており、11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間がある。しかし認知度は低く、関心も高まっていない。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらおう。		
成果目標	女性に対する暴力をなくす運動を知ってもらい、市民の性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー 市内図書館	事業期間	令和4年11月11日～25日
事業の概要	パネル展示、図書紹介等を通じて、女性に対する暴力をなくす運動の周知を図る。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	「女性に対する暴力をなくす運動」及びパープルリボン運動の認知が広まった
協働による効果	より効果的に啓発を行うことができた
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野から考える人権展		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松本人権擁護委員協議会安曇野部会 ・ 安曇野市男女共同参画推進会議 		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

安曇野から考える人権展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年、12/4～10 は人権週間となっており、12/10 は世界人権デーとなっている。また、人権に関する課題は年々、複雑化・多様化している。		
事業の目的	条例改正及び令和5年度からの新たな計画策定に向け、多文化共生分野や男女共同参画を身近な問題として考える機会とする。		
成果目標	安曇野市の現状を知り、多文化共生や男女共同参画に対し関心を持ってもらう。		
実施場所	貞享義民記念館	事業期間	令和4年12月6日～23日
事業の概要	人権に関する課題や安曇野市における多文化共生・男女共同参画の現状に関するパネルを展示。併せて、計画書のイラスト原画（カミジョウミカさんや安曇養護学校の生徒の作品）を展示。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	周知
	相手側	展示用品の援助等
	市側	事務（展示パネル作成、設営等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	安曇野市の多文化共生・男女共同参画の現状等を知ってもらう機会の提供ができた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	身近な題材を取り上げ、より興味を持ってもらえる内容を検討する。 誰もが活躍できる共生社会にするため、各個人の行動変容を促す展示を検討する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		2022 “世界にやさしい安曇野” へ～ 日本語 de スピーチ大会 & 対話会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

スピーチをした方を表彰

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民への理解の促進。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	市役所本庁舎大会議室	事業期間	令和4年7月31日
事業の概要	地域に暮らす16人の外国籍市民等に暮らしの中での想い等を発表していただく。観客からの質問を受ける「対話会」を初めて実施する。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	チラシの設置、多文化共生パネル展示等と併せた周知、会場準備及び片付け
	相手側	発表者の募集、意見文の作成支援
	市側	配布資料等準備、ラジオ番組での周知

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	継続して実施し、多様な文化を受け入れる意識の醸成を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		外国人市民会議		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

会議の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等の困りごとやその解決方法、得意なこと等を話し合い、行政と支援団体が情報共有する。		
成果目標	協働による安心して暮らせるまちの実現。		
実施場所	市役所本庁舎 大会議室	事業期間	令和4年10月16日・11月20日
事業の概要	外国籍市民等が集まり、第1回：「外国人が住みやすい安曇野」になるために必要なこと、第2回：「外国人と日本人が仲良く暮らす」ためにどんな交流をしたいですか？をテーマに話し合う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	イベントの企画、周知、資料等作成、会場準備及び片付け
	相手側	広報チラシの作成、参加者の募集
	市側	会場確保、配布資料印刷

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施することができた。
課題・改善点	当事者からの意見を踏まえ、相談体制や生活・社会基盤の充実を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生意見交換会 2022		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和4年4月1日現在、1,252人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	様々な立場の方が意見交換や情報共有することで、相互理解を深め、多文化共生活動のさらなる推進を図る。		
成果目標	協働による安心して暮らせるまちの実現。		
実施場所	市役所本庁舎 大会議室	事業期間	令和4年12月18日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語deスピーチ大会の視聴 ・あづみの国際化ネットワークの活動紹介 ・グループに分かれての意見交換 ・外国料理の弁当の販売（受益者負担） 		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	内容の検討、通知文の作成、会場準備及び片付け
	相手側	司会進行、意見の記録
	市側	教育委員会等の招待、「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」資料提供等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	当事者からの意見を踏まえ、相談体制や生活・社会基盤の充実を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市共生社会づくりフォーラム 2022	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市共生社会づくり フォーラム実行委員会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

フォーラム当日の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和4年4月に施行された「安曇野市の多様性を尊重し合う共生社会づくり条例」が施行となり、年齢・国籍・障害の有無や性別等に関わらず、誰もが個性と能力を発揮し、活躍する共生社会を実現するための計画を今年度中に策定する。		
事業の目的	誰もが能力を発揮し、活躍できる社会づくり		
成果目標	講座やシンポジウムを通じ、共生社会づくりとはなにかを考えるきっかけとする		
実施場所	市役所4階大会議室	事業期間	令和4年8月6日（土）
事業の概要	長野県男女共同参画センター あいとぴあと共催の講演と、市内推進団体によるシンポジウムを開催し、「共生社会」とは何か、ともに考え実践に結びつけていくための交流の場の機会とする。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	フォーラムの実施
	相手側	当日の準備、運営
	市側	事務（実行委員会事務局）

【実施結果】

成果目標の達成状況	共生社会づくりのために自分に何ができるかを考える機会や地域の団体等の活動を学ぶきっかけとなった
協働による効果	関係団体の意識づくりにつながった
課題・改善点	共生社会づくりという広いテーマのため、自分事にできる切り口で、啓発を続けていくことが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ホンデリングデー		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	認定特定非営利活動法人 長野犯罪被害者支援センター		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

本等の受付

【事業の概要】

取組の背景・課題	犯罪被害者支援について市民が直接関わり、取り組みを知ってもらう機会であり、また、松本人権擁護委員協議会安曇野部会及び安曇野地区保護司会が市とともに共催となることで広く犯罪被害者支援につなげる。		
事業の目的	継続的な実施により、市民の犯罪被害者支援への理解や協力の促進を目指す。		
成果目標	犯罪被害者支援に資すること。		
実施場所	市役所本庁舎東ロビー	事業期間	令和4年11月24日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本、CD/DVD、書き損じはがき等の回収。 ・ リユース本による募金の受付 		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	内容の検討、会場準備及び片付け。
	相手側	集まった本等のとりまとめ。
	市側	プレスリリース、広報誌、ツイッターの活用による市民への周知。 当日受付の協力。1月31日までの寄付の受付。

【実施結果】

成果目標の達成状況	本・CD・DVD 3188点、書き損じはがき 219枚が寄せられた。（R5.1.31時点）
協働による効果	市が主体的に広報を行うことで広く市民に周知することができる。
課題・改善点	プレスリリースによる新聞等への掲載により来庁された方が多く、前年度より多くの寄付を集めることができた。来年度もより効果的に周知を図れたらと考える。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		官民協働事業・イオン豊科店「わが街 NAVI」
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（協働広告）
実施団体	相手側	イオン豊科店、(株)サイネックス
	市側	政策部秘書広報課秘書広報係（担当）



デジタルサイネージの設置状況

【事業の概要】

取組の背景・課題	背景：(株)サイネックスとの協同事業として、地域住民が集うイオン豊科店に設置されたデジタルサイネージを活用し、行政情報や地域情報などを発信する。 課題：情報パネルへの動画掲載、インフォパネルへの静止画情報掲載において多くの方に関心を持ってもらえる伝わる広報力が求められる。		
事業の目的	デジタルサイネージを活用した行政情報、市公共施設からのお知らせなどの、情報を発信する。		
成果目標	(株)サイネックスとの協働により、行政情報や地域情報などを発信する。		
実施場所	イオン豊科店	事業期間	令和4年9月～
事業の概要	インフォメーションパネルは、市が定期的にイベントの情報を更新し、同店へ来店された方に行政情報、地域情報を動画や静止画でタイムリーに情報発信している。設置費用などは、広告収入で賄い、市の財政負担はなしの“ゼロ予算事業”であり、(株)サイネックスと市が協働で運用している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	動画情報の更新手続き
	相手側	広告主の募集及び広告掲載
	市側	行政情報の掲載管理、動画情報の掲載依頼、情報ラックへの資料設置

【実施結果】

成果目標の達成状況	行政情報や地域情報などを発信（掲載内容：動画3本、静止画18件）
協働による効果	タイムリーな情報発信により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	多くの方に関心を持ってもらえる伝わる広報力の向上

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

プロジェクトメンバーによる桜の植栽の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	観光の名所として知られる光城山の桜は、麓から山頂まで徐々に開花する様子が「昇り龍」に例えられ、地域に親しまれている。しかし、近年老木化が進み、早期の植え替えが課題となっていた。課題解決を図るためには、市民及び市が協働で取り組む必要があり、平成 26 年度に光城山の所有者や地元区、NPO と市にて、「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」を設立した。		
事業の目的	市民と市が協働で桜の植栽を進めるとともに、光城山及び周辺地域一体は、豊かな自然環境や城山としての歴史・文化など多くの魅力があるため、市民へ広く発信し、市の一体感の醸成を図ることを目的とする。		
成果目標	「昇り龍」の維持に向けた桜の植栽と光城山の魅力発信を行う。		
実施場所	光城山一帯	事業期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日
事業の概要	令和 5 年度は、桜の植栽場所の選定、資材運搬作業を経て、10/30 に光城山中腹に 20 本の桜を植樹した。また、プロジェクトや光城山の魅力を発信するため、地元農家による軽トラ市（4 回）の開催するほか、大口沢区をフィールドに、透ガ原神社や道祖神などの遺構などを巡り、地域の暮らしぶりを学ぶ機会として、11/13 に歴史・文化講座を開催した。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	植栽個所の選定、植栽事業準備作業、植栽事業運営、その他各事業の企画運営 など
	相手側	植樹に向けた各種検討、鹿対策防護柵の作成、桜の育成管理 など
	市側	予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、植樹参加者のとりまとめ など

【実施結果】

成果目標の達成状況	20 本の桜を新たに植栽する他、軽トラ市や講座により地域の魅力を発信した。
協働による効果	双方が主体的に役割を担い合い、各種事業を実施し、成果を達成することができた。
課題・改善点	植栽した桜を生育管理するための体制づくり。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

マリーゴールドの生育状況等の巡視

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。		
事業の目的	住民の創意工夫による美しい景観の形成により、安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、活動を通じた絆や生きがいづくり等による地域コミュニティの形成に寄与することを目的とする。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市シニアクラブ連合会活動区画	事業期間	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日
事業の概要	市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。毎年参加を希望する個人・団体により実行委員会を構成し、それぞれ担当区画を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。一部の区画では、県、団体、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営、事務局
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

【実施結果】

成果目標の達成状況	67 団体（1,267 名及び各シニアクラブ会員数）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	参加団体数が減少しており、景観美化が行き届いていない区画がある。新たな担い手の発掘や区画の管理体制に工夫が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの市民活動フェスタ 2022		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	市民活動フェスタ運営チーム		
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当		

出展団体と運営チームの皆さん

【事業の概要】

取組の背景・課題	一人ひとりがまちづくりへの関心を高め、まちづくりへ参画し、様々な主体が役割と責任を果たしながら力を合わせる協働を実現するため。		
事業の目的	広く市民が市民活動や協働のまちづくりについて知り、参加するきっかけとするため。		
成果目標	関心がない人が知って、楽しく関わるきっかけとなる。		
実施場所	穂高交流学習センター みらい	事業期間	令和4年10月23日
事業の概要	① 屋内外ブース出展 ② ステージ発表 ③ 市民活動団体等の紹介パネル展示		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般
	相手側	広報活動・チラシ作成
	市側	出展団体とりまとめ、会場確保、櫃用機材の準備、ホームページ等への掲載 チラシの配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	32 団体が出展し、ブース出展、ステージ発表、パネル展示を通じ各団体の活動を多くの市民にPR することができた。
協働による効果	多世代が集まる交流学習センターで屋内外を利用したことで多くの市民に市民活動を知ってもらうことができた。
課題・改善点	市民活動の主旨がきちんと伝わるような PR 方法を工夫する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ゆるくつながる出会いの場 (通称 ゆるつな)		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	ゆるつな運営チーム		
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当		

「ゆるつな」での団体同士の交流の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民団体同士、団体と市民のきっかけがない。		
事業の目的	市民活動に取り組む方を中心に様々な人が気楽に集まりゆるくつながることで、情報交換や連携のきっかけを作る。		
成果目標	定期的な交流の場を作り、活動団体同士の連携を生むこと。		
実施場所	安曇野市役所 各地域公民館	事業期間	令和4年5月～令和5年3月
事業の概要	<p>偶数月は「ゆるつな」地域を回り、テーマを決めて市民活動団体同士、団体と市民が交流できる場、市民向けに発信できる場を作る。</p> <p>① 活動紹介&PR タイム …参加団体の活動紹介、PR をする</p> <p>② ワークショップや体験会 …団体のワークショップや活動の体験会を行う。</p> <p>奇数月は「ゆるつな茶話会」集まりたい人が集まって自由に話しながら情報交換をできる場を作る。</p>		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒に取組	企画内容検討、当日の運営全般、振り返り
	相手側	参加者呼び込み
	市側	会場・必要機材の準備、ホームページ等への掲載、チラシの作成・配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者同士でコラボ企画が立ち上がる等、新たな活動につながった。
協働による効果	サポートセンター単独ではできない企画を実施することができた。市民活動を盛り上げるために何かしたいという思いを持つ人が力を発揮する場となった。
課題・改善点	呼びかけた団体や市民、運営チームの参加が多く、チラシや広報を見て参加する人が少ない。参加者の幅を広げるために広報など周知方法に工夫が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ふるさと夏祭り		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	ふるさと夏祭り実行委員会		
	市側	市民生活部 地域づくり課 三郷地域担当		

花火打上

【事業の概要】

取組の背景・課題	三郷地域の夏の恒例行事として毎年開催していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小して花火打上のみ行った。次年度はコロナ前の状況に近い形での開催方法を検討する必要がある。		
事業の目的	旧三郷村から続くふるさと夏祭りは、住民の交流と地域への愛着を高め、コミュニティ意識を醸成することを目的としている。		
成果目標	多くの人々の参加により、地域コミュニティの活性化と地域振興を図る。		
実施場所	三郷文化公園周辺	事業期間	令和4年8月11日
事業の概要	令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場でのイベントを中止し、無観客で花火打上のみ実施した。 商工会、区、公民館、学校など各代表によって構成された実行委員会によって運営している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	企画、運営、会場準備及び片付け
	相手側	協賛金の確保、各関係機関への連絡調整、備品の整備
	市側	補助金の負担、会場確保、区及び市民への広報、看板準備

【実施結果】

成果目標の達成状況	花火打上のみであったが夏の恒例行事として継続することができた。
協働による効果	それぞれの役割分担により連携し、安全に実施することができた。
課題・改善点	次年度再開に向け、コロナ禍で3年間中止、縮小したため、集客と寄付金などの財源を確保するための周知に努める。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()	
実施団体	相手側	岩原ひまわりクラブ	
	市側	市民生活部 地域づくり課 堀金地域担当	

植栽作業の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	美化活動を通して子どもからお年寄り並びに事業所までが共に協力、交流をしながら、住みよい・美しい岩原区を作り上げ、地域活性化を図るために活動が始まる。平成25年7月2日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で3者協定を結ぶ。		
事業の目的	長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。		
成果目標	花の植栽や美化清掃作業等により、活動区間を良好な環境に保つ。		
実施場所	主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川(岩原)地区)	事業期間	5月~11月
事業の概要	岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道及び歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持に努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。建設事務所は、活動区間に団体名等を記載した表示板を設置するとともに、岩原ひまわりクラブの希望により、必要な清掃用具、材料等を貸与又は支給する。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	なし
	相手側	歩道及び歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業
	市側	ゴミ処理

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動区間の美化のため、各々の役割分担により、花の植栽等を実施した。
協働による効果	道路の美化と地域環境の向上
課題・改善点	花の管理の省力化、クラブ員高齢化による後継クラブ員の確保。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野明科あやめまつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あやめまつり実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 明科地域担当	

あやめまつりフォトコンテスト
最優秀賞作品「初夏の彩り」

【事業の概要】

取組の背景・課題	昭和 60 年から続くあやめ公園のハナショウブは連作障害や担い手不足などから花の勢いが衰え、復活が課題であったが、保存会の育成により 50 種類 3 万株のハナショウブが復活した。これを契機に令和 4 年 6 月、3 年ぶりとなる第 38 回あやめまつりを再開。約 1 万人の来場者でにぎわった。今後は 3 年に 1 度の株分けを継続するなど、広大な敷地の花の管理を行う担い手の確保が課題である。		
事業の目的	水郷明科のあやめの魅力を永く後世に伝える。地域の活性化を図り、市民相互の交流の場をつくる。		
成果目標	市民との協働による人のつながり、地域活性化の推進に寄与する。		
実施場所	あやめ公園・龍門淵公園ほか明科地域一円	事業期間	6 月中旬
事業の概要	実行委員、地域住民、地元高校生が中心となり、あやめ公園周辺の事前美化活動を行う。ハナショウブの開花時期に合わせ、あやめまつりを開催し、特設ステージでの催しや、フォトコンテスト、芸能発表会、ウォーキングなどを通して市民相互の交流促進を図る。賑わいを作り地域の活性化を図る。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒に取組	事前清掃活動・事前準備・あやめまつり催事運営
	相手側	催事内容の検討・出展者等調整・経費支払い事務・物販販売など
	市側	事務局（補助金交付事務・事業の進捗管理・関係機関届出事務など）

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	住民が地域資源の花を愛でるまつりを通じて絆を深め、生き甲斐づくりに繋がった。地元小中高生と高齢者が事前清掃活動や催事手伝いを通して触れ合うことで世代間交流が図られ、心の健康につながった。廃線敷や廃寺跡地など地域の観光資源にトレッキングを行い、健康増進と歴史伝承を図ることができた。
課題・改善点	3 年に 1 度のハナショウブの株分けを継続するなど、広大な敷地の花の管理を行う担い手の確保や自主財源の確保が課題である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野環境フェア 2022	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野環境フェア実行委員会	
	市側	市民生活部 環境課 環境政策担当	

安曇野環境フェア 2022 の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	「安曇野市環境基本計画」および「環境行動計画」の紹介や環境に関連する活動を行っている個人・団体・企業の交流の場を提供する。		
事業の目的	「安曇野市環境基本計画」および「環境行動計画」についての取り組みを市民に広く紹介しながら、より良い安曇野市の環境を創出していくための活動を行っている個人・団体・企業が、情報交換・交流を図る場として「安曇野環境フェア」を開催する。		
成果目標	毎年 10 月頃の安曇野環境フェアの開催および 2,000 人以上の参加。		
実施場所	安曇野市穂高会館	事業期間	令和 4 年 10 月 8 日～10 月 9 日
事業の概要	安曇野環境フェア 2022 の内容は水を中心とし、テーマを「知ろう 守ろう あづみ野の水」とした。2/18 に準備会を開催、4/21, 6/16, 9/1, 22 に実行委員会を開催、10/6, 7 に直前準備を実施し、10/8, 9 に開催当日を迎えた。10/21 は次回の開催テーマも含めて振り返り会を実施した。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	準備会、実行委員会、前日準備、当日運営、振り返り会におけるイベント企画、広報 など
	相手側	各所属団体における出展準備、地域へのポスター・チラシ配布などの周知活動
	市側	イベント運営サポート業者との契約、会場・物品借用、出展者の取りまとめなどの事務処理

【実施結果】

成果目標の達成状況	10/8, 9 に開催。1 日目に約 900 人、2 日目に約 500 人の約 1,400 人が参加した。
協働による効果	実行委員が主体的に企画について話し合い、イベント周知などを行ったことで、市民主体の特色を出しつつ事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	今後、実行委員の高齢化が進むため、新規や若手の実行委員加入が求められる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		不用食器リサイクル活動	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会	
	市側	市民生活部 環境課 資源循環推進担当	

ドライブスルー方式での不用食器回収の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	一般家庭から排出される食器は不燃ごみとして埋め立て処理しているが、ごみの減量化・循環型社会形成の観点から、食器の再利用（リユース）や再資源化（リサイクル）等を推進することで、埋め立て処理量を減らすことが求められている。		
事業の目的	家庭で不用となった食器を再利用及び再資源化することにより、ごみの減量を図り、循環型社会の形成を促進する。		
成果目標	市民と協働で不用食器の回収を行って再利用（リユース）の場を提供し、ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。		
実施場所	① 県民豊科運動広場 駐車場（不用食器回収） ② 穂高会館（もったいない市）	事業期間	2022年4月1日～2023年3月31日
事業の概要	① 10月2日（日）にドライブスルー方式で不用食器回収を実施。 ② 10月8、9日開催の「安曇野環境フェア2022」で「もったいない市」を実施。 ③ 11月15日、回収した不用食器の内 1,368 kg を公用車に積み、再資源化処理委託業者へ運搬、再生食器の陶土の原料として再資源化し、資源の有効活用を図った。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	事前準備、当日の会場準備、あと片付け等
	相手側	不用食器回収事業の計画立案、事前準備、実行委員の招集と連絡、当日の運営等
	市側	回収場所や保管場所の提供、物品貸出、食器の積み込みと荷下ろし、再資源化処理業者への食器の運搬、再資源化処理にかかる費用負担、住民への広報等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	役割分担により、事業を効率的に実施することができた。
課題・改善点	○組織改編で、特に食器の運搬業務が担当課の人力だけでは行えない状況となった。来年度からは、再資源化処理業者への食器の運搬は業者委託する予定。実行委員、担当課双方の負担軽減をすすめていきたい。 ○新型コロナにより、不用食器回収は3年ぶりの開催となった。（前回は2019年）回収会場での「もったいない市」について、対策を講じたうえで検討していく。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		明科駅周辺 まちあるき空き家・空き店舗見学会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	明科駅周辺まちづくり委員会	
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係	

まちあるきで空き家物件を見学する様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>明科地域は少子高齢化や人口減少が進み、令和4年4月に市内で一部過疎地域の指定を受けた。駅周辺は、公共施設や店舗など生活に利便性の高いコンパクトシティとして暮らしやすい環境であるが、空家の増加によりまちが空洞化し魅力や活力が衰退してきている。まちの魅力を情報発信しながら、空家の利活用を促進することで、移住や創業など交流、関係人口の創出から人口増加につなげることが課題となっている。</p>		
事業の目的	<p>ガイドによるまちの歴史、文化など魅力を情報発信し、まちなかに点在する空家の利活用を図ることで、移住や創業から生まれる人や地域とのつながりを基盤に、まちに賑わいを取り戻すことを目的としている。</p>		
成果目標	<p>明科地域の魅力発信と空家物件の活用促進。（移住や創業など多様な利活用の成立）</p>		
実施場所	明科駅周辺	事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
事業の概要	<p>年間4回（5月21日「18名」・8月27日「15名」・11月12日「11名」・2月25日）開催。明科駅周辺のまちなかに点在する空家や利活用物件（龍門測てらすなど）の内覧によるマッチングとともに、地域に精通したガイドから歴史や文化、まちの魅力を紹介している。2月に実施した見学会では、エリアを拡大し、明南小学校や明科中学校、雲龍寺がある文教ゾーンで開催した。首都圏や県外、市外からの参加は20名を超えた。</p>		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	事業の企画、運営、空家物件の掘り起こし、活用のマッチング促進
	相手側	イベント統括、まちなかガイド、空家活用・創業・移住相談
	市側	予算執行（ガイド・建築士）、空家所有者交渉、開催通知、制度案内・相談

【実施結果】

成果目標の達成状況	ほぼ、達成できた。
協働による効果	<p>情報を共有、活用することで、所有者と利活用希望者による多様なマッチングの機会が生まれている。龍門測てらすでは、空家活用や移住相談に直接、対応しており、官民連携による総合的な空家対策が進んできている。</p>
課題・改善点	空家を活用した地域活性化への所有者及び地域への理解浸透、未利用物件の活用促進

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		豊科北中学校 総合的な学習「空家を生かしたまちづくり」～探求的に地域を学ぶ～	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	NEX-T 安曇野	
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係	

フィールドワークの調査結果をまとめる様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>少子高齢化や人口減少社会を背景に増え続ける空家。豊科地域の商店街では多くのシャッターが閉じ、地域の魅力低下や活力の衰退が心配される状況となっている。地域の資源として空家を活用することで、人が集い賑わいある持続可能な地域づくりを推進するため、所有者や地域、市民の関心や意識を高めることが必要である。</p>		
事業の目的	<p>身近なまちの成り立ちや歴史について学ぶことで、「気づき・なぜ？・考える」ことから探求的な学びを実践する。まちの魅力と課題を整理し、課題解決の方法について考えることで、まちづくりや社会問題への関心、地域への愛着を深めることを目的とする。</p>		
成果目標	<p>「空家活用5年度のまちづくりの提案書」をまとめ、学年発表や市の啓発イベントなどで学習成果を報告し、社会問題への関心を高め自ら考える力を養う。</p>		
実施場所	豊科地域（新田・成相区）	事業期間	令和4年8月24日～令和5年3月5日
事業の概要	<p>豊科北中学校3年4組の総合的な学習の時間として、8/24にガイダンスを実施し、ステップ1「まちを知る」で9/5に豊科駅前周辺をフィールドワークし、まちの「いいね！・いまいち」を9/12にまとめた。ステップ2は「まちの課題を考える」。10/17に空家活用の講義、ステップ1の情報から課題を設定。10/31は魅力再発見のためフィールドワークを行い、11/14に「豊科駅周辺の空家活用5年度のまちづくり」を提案書にまとめた。3/5には「2023 未来につなぐ空き家の語り場」にて事業成果を発表した。</p>		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事業の企画、運営、授業に活用する題材作成
	相手側	学習の進行、資料（フィールドワーク、ワークショップ、写真等）作成、とりまとめ
	市側	空家に関する講義、市民向け啓発の場「2023 未来につなぐ空き家の語り場」

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	役割を明確に関連団体が連携することで効果的に事業を実施することができた。
課題・改善点	将来の持続可能な地域社会の実現に向けて、若い世代に対する地元への愛着を高めるための継続的な活動や支援体制が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野玉ねぎ祭り
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野玉ねぎ祭り実行委員会参加団体（者）
	市側	農林部 農政課 生産振興担当



玉ねぎ収穫体験の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>旧豊科町が「安曇野とよしな玉ねぎ祭り」として開催。1997年(平成9)に当時の豊科町が「玉ねぎまちづくり連絡協議会」を設け、町を挙げて生産振興を進め、栽培面積が広がった。元々、豊科はタマネギ産地だったが、重いタマネギの収穫は重労働で、農家の高齢化もあって面積は減少傾向にあった。しかし、タマネギに含まれる栄養が注目を集めるとともに、昔からの栽培経験を生かせる振興作物として見直され、特産品化を図る中で生産が拡大した。豊科は砂質土壌で水はけが良い。加えて川が多く、必要時に十分な水が確保できるため栽培に適している。現状では県内での産地として確立され、代表的な転作作物として生産の振興をはかっているが、大きく面積の拡大には至っていない。</p>		
事業の目的	<p>「安曇野玉ねぎ祭り」を実施し、安曇野市の主要農産物である「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、地産地消による地域農業振興を図ることを目的とする。</p>		
成果目標	<p>「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図る。</p>		
実施場所	市内参加団体圃場	事業期間	令和4年6月18日～19日
事業の概要	<p>市内参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う。</p>		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営方法の検討及び決定
	相手側	参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う
	市側	事務局（広報・連絡調整）

【実施結果】

成果目標の達成状況	産地として、またイベントも周知され多くの方に来場いただけた。
協働による効果	「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図れた。
課題・改善点	販売価格の調整

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		里山再生計画推進事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	市民、事業者		
	市側	農林部 耕地林務課 林務担当		

さとぶろ。学校の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>市内では、放置される里山が拡大したことで他の樹木の育成が阻害され、土砂災害防止機能低下や、山際の放置林では藪が生い茂り、野生鳥獣が身を隠し、近隣の田畑における農作物被害が増加し人的被害も発生している。</p> <p>本事業における取組は、里山を利用する仕組みを現在のスタイルにあった形でもう一度作り上げ、市民、事業者と共に里山再生を図ることを目的として取組を進めるもの。</p>		
事業の目的	<p>里山の魅力を見だし、多くの市民等が里山に入ることにより、現在の里山の課題を解消することで里山の再生を図る。</p>		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な環境から成り立つ里山・多くの人々が里山を資源として利用 ・災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山 		
実施場所	市内の里山（全域）	事業期間	平成27年度～
事業の概要	<p>里山再生計画に掲げる「里山の未来像」を目指し、下記4つのプロジェクトが課題解決に向けた取組を協議し、プロジェクトに直接参加していない市民や課題を抱えた地域とネットワークを構築しながら、里山再生の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山まきの環、里山木材活用、里山学びの環、里山魅力発見 プロジェクト 		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒に取組	里山再生推進協議会、4つのプロジェクト、市民、事業者
	相手側	
	市側	里山再生計画推進、取組に向けた各プロジェクト及び協議会の事務及び広報等

【実施結果】

成果目標の達成状況	<p>①里山まきの環、②里山木材活用、③里山魅力発見、④里山学びの環</p> <p>①新生産体制の連携が強化され、薪ストーブユーザーへの供給場所、方法、時期が多様化。</p> <p>②山林所有者、林業事業者、製材加工事業者、建築士およびユーザーの間で情報を共有することにより、需要に応じて安曇野材の供給体制を構築。</p> <p>③里山の豊富な魅力が明らかになり、里山を楽しむ場、機会そして市民の関りが多様化。</p> <p>④さとぶろ。学校の受講生の年齢層を広げ、里山活動に関心のある幅広い年齢層を対象としたプログラムを企画し、終了後に楽しみながら里山で活動する市民を増やす。</p>
協働による効果	<p>様々な問題が生じている里山の問題解決に向け、暮らしを守り、豊かにしてくれる里山の再生に向けた取組を市民、事業者、行政と一緒に進め、里山をあるべき姿に再生し、元気な里山を取り戻す。</p>
課題・改善点	<p>里山に関わる市民、事業者を増やすための活動や、グループを増やす。</p>

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称	「あづみ野てらす」事業等		
協働の形態	1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	観光復興イベント実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

タイアップイベント「あづみ野てらす」

【事業の概要】

取組の背景・課題	新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が減少。これに伴い冷え込んだ市内経済の回復として、アフターコロナを見据えた観光誘客・周遊対策が求められる。		
事業の目的	新型コロナウイルス感染症の影響により冷え込んだ市内経済の回復と観光誘客を図る事業を実施する。		
成果目標	アフターコロナに向けたイベントの開催		
実施場所	市内	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	観光協会、商工会他、市内観光関係事業者・団体に構成する「観光復興イベント実行委員会」を令和3年の12月に設置。主な取組みとして、令和4年5月に開催された「穂高神社式年遷宮祭」と「穂高人形ものがたり」と併せたタイアップイベント「あづみ野てらす」による展示販売（グルメ系・クラフト系の出店、ステージイベントの開催等）を実施した。また、冬季の観光誘客につなげるために「安曇野神竹灯」とタイアップした「あづみ野ぷちてらす」（クラフトマーケット・キッチンカー、神楽殿ライブ）を実施した。4～12月まで観光客の周遊を促し滞在時間を延長するため登録店で使用できる周遊クーポン事業を実施した。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	実行員委員会運営・資料作成・広報・新型コロナウイルス対策・警備、交通対策

【実施結果】

成果目標の達成状況	「あづみ野てらす」は17日間で15万人、「あづみ野ぷちてらす」は7日間で3万4千人の誘客を動員し、ともに周遊クーポン事業も併せて事業展開したことで、地域経済の活性化や来場者の満足度に繋がった。
協働による効果	活動・事務作業の役割分担における効率化、誘客促進と来訪者満足度向上に寄与。
課題・改善点	数年に一度の機会に行うため、地元商店街の協力や企画運営の検討が難しい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第36回早春賦まつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	早春賦まつり実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

早春賦歌碑

【事業の概要】

取組の背景・課題	日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内外の人による観光交流人口の拡大を図る。早春賦歌碑を知らない人・興味がない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。		
事業の目的	叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。		
成果目標	県内外から来場者を集め、「早春賦」を歌い広める。		
実施場所	穂高川右岸 早春賦歌碑前	事業期間	4月29日（金・祝）
事業の概要	市内小学生・文化協会コーラス部合唱、アルパクラブ演奏、会場全体による早春賦大合唱。お茶やまんじゅう等のサービス。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	出演者・関係団体との調整。
	市側	各種申請・手配。出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	規模縮小のうえ開催予定であったが、悪天候のため祭りの開催は中止となった。
協働による効果	まつり自体は中止となったが、早春賦を歌い継いでいくことを目的に実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進することができた。
課題・改善点	会場が狭く収容人数の増大は見込めないため、事業規模の維持と誘客のバランスを取りながら、事業が形骸化しないよう取り組んでいく必要がある。 また、事業の目的が観光イベントというよりも早春賦を後世につなげる要素が強くなっていることから、今後の開催方法等を検討していく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野ロゲイニング		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	信州安曇野ロゲイニング実行委員会		
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当		

競技中の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	あやめ祭りの一環として実施していたものを独立して実施している。市内各地域で競技を行ってきたが、今後のやり方を検討する必要がある。		
事業の目的	安曇野を拠点にスポーツと観光を融合したロゲイニングを実施し、交流人口拡大を図る。		
成果目標	ロゲイニングを通じた観光交流人口の拡大。		
実施場所	安曇野市内	事業期間	不定期
事業の概要	毎年開催地域を変え、地域密着型のイベントとして開催。式年遷宮祭や安曇野神竹灯などと同時開催し相乗効果をねらうなど、ロゲイニングの特徴を生かした実施方法で行う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営方法決定、広報、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は市内外から約 180 人が参加し、観光交流人口の拡大に寄与している。
協働による効果	実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、安曇野ファン獲得に大きな効果があった。
課題・改善点	競技性を損なわずに、より観光色を強めていく必要がある。 実行委員会主体で宿泊や飲食といった方面への効果を高めていく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 15 回安曇野花火		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野花火実行委員会		
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当		

開幕一斉打ちの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧 5 町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会青年部などが中心となり開催。今年度においては、コロナにより規模を縮小し、新型コロナウイルス感染対策（来場者数の制限等含む）を講じたうえ開催。		
事業の目的	市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。		
成果目標	安曇野花火を通じた観光交流人口の拡大。		
実施場所	明科御宝田遊水池周辺	事業期間	8 月 14 日（水）
事業の概要	明科の御宝田遊水池周辺を会場として花火大会を開催する。周辺の交通規制や臨時駐車場を設けることなどで安全な大会運営を行う。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各部会による事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は、市内外から約 2,000 人が訪れ、観光交流人口の拡大に寄与している。
協働による効果	実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	実行委員会と市が役割を明確にし、緊急時の対応含め、より安全な大会運営を行う必要がある。 会場規模、立地条件が限られており、需要拡大に対応するには限界がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の 名称	安曇野やさいスイーツプロジェクト		
協働の 形態	1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）		
実施 団体	相手 側	安曇野やさいスイーツプロジェクト	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

安曇野やさいスイーツ商品の数々

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 22 年「安曇野ブランドデザイン会議」の事業として、やさいスイーツの取組がスタートし、会議が解散した後もメンバーが主体となり継続運営。 観光振興、地域ブランドの創出を図る。		
事業の目的	安曇野発の新たな食の魅力の発信をすること		
成果目標	安曇野やさいスイーツフェアの実施		
実施場所	市内	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	安曇野市内の菓子店やレストランでつくる「安曇野やさいスイーツプロジェクト」は、市の野菜をアピールするためにテーマを決めてフェアに取り組んできて今年で 13 回目となる。令和 4 年度は 10 月 1 日～10 月 31 日の期間に安曇野の豊かな自然が育んだ野菜を使用した「やさいスイーツ」をテーマに「やさいスイーツフェア」を開催。期間中はチラシを利用して各店舗を回るシールラリーを実施し、複数店舗で購入された方に対して抽選でプロジェクト参加店で使える商品券を進呈した。また、関連の取組として、フェア前日イベントを市役所「あったカフェ」でやさいスイーツの限定展示販売を行った。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	スタンプラリーは 48 名が応募。活動を通じて多くの方に市内飲食店・菓子店を知ってもらい安曇野やさいスイーツの魅力を発信できた
協働による効果	プロジェクトメンバーが各個店の魅力を発信活動また事務作業の役割分担における効率化
課題・改善点	PR 活動の強化や営業をしながらの各メンバー間の意思決定を図ることが難しい

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野 APPLE HALLOWEEN		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（後援）		
実施団体	相手側	JR 東日本長野支社		
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当		

トンネル内のジャックオランタン

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧国鉄篠ノ井線廃線敷にて駅からハイキングと併せたイベントとして 2020 年より実施し、今年で 3 回目。主催は JR 東日本長野支社で、市は後援として協力している。		
事業の目的	ハロウィンイベントを通して地元の人に廃線敷の魅力を再認識してもらう。また、JR を利用して県外から来た観光客に廃線敷含む安曇野市を PR する。		
成果目標	明科駅を含む明科地域の活性化		
実施場所	旧国鉄篠ノ井線廃線敷	事業期間	10 月最終土曜日・日曜日
事業の概要	トンネル内へ地元小学生と園児が制作したジャック・オー・ランタンの展示 りんごのジャック・オー・ランタン製作体験（各日先着 50 名） 廃線敷マルシェ（安曇野林檎ナポリタンや円揚げの販売、えべや・西村商店出店） JA あづみによる規格外りんご詰め放題（有料）の実施 篠ノ井線思い出ギャラリー など		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	各種申請・手配。
	市側	出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	両日あわせて市内外から約 1,500 人が訪れ、観光交流人口の拡大に寄与している。
協働による効果	JR と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	JR の組織改革によりこのイベントに人員を割くことが難しいため事業主体協働と並行検討していかなければならない。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第8回信州安曇野ハーフマラソン	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 スポーツ推進課 スポーツ推進担当	

初夏の安曇野を満喫するランナー

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の魅力を発信し、交流人口の拡大を図るとともに、スポーツの振興と地域経済の活性化を図るため、全国からランナーを募集するとともに、市民や事業者、行政等が一体となった運営体制を構築する。		
事業の目的	安曇野の豊かな自然やそこに暮らす温かい人々の魅力をマラソンを通じて発信するとともに、市の一体感の醸成と地域経済の活性化を目的とする。		
成果目標	全国から参加するランナーに安曇野の自然や人の魅力を感じてもらい、安曇野ファンを獲得するとともに、市民についても大会運営への参画や応援を通じ、地域に対する誇りと愛着を持っていただく。		
実施場所	豊科南部総合公園	事業期間	令和3年10月～令和4年9月
事業の概要	拾ヶ堰や安曇野の田園地帯をコースとして、ハーフマラソンを実施する。安曇野ならではの食の提供などでランナーへのおもてなしを実施するとともに、市民についても運営ボランティアや応援などに参画していただく。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	ランナーへのおもてなし、ボランティア募集、大会PR、協賛金募集など
	相手側	おもてなし、事業者との調整など
	市側	大会運営全般

【実施結果】

成果目標の達成状況	大会参加者の満足度も高く、700名を超える市民がボランティアに参加した。
協働による効果	双方が責任を持って自身の役割を果たすことにより、参加者に対しきめ細かな対応ができ、満足度の向上につながった。
課題・改善点	準備段階において、更なる情報交換・意見交換が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市コミュニティスクール事業		 <p>堀金小学校 地域学校協働活動 拾ヶ堰クリーン大作戦 (5・6年生)</p>
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	地域住民、各種ボランティア団体等		
	市側	安曇野市立小中学校 17 校 (教育部 学校教育課 学校教育担当)		

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域社会の中で育まれてきた子ども達の経験や学びの機会が失われつつある中で、子ども達がたくましく生き抜くために必要な能力を身に付けるため、地域全体で多様な教育を行うことが求められている。		
事業の目的	地域住民が学校運営に加わる学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域全体で子どもの学びと成長を支える。		
成果目標	様々な人やものとの関わりを通して、子ども達の学びや体験活動の充実を図り、地域への愛着心を養う。 地域住民の交流や地域の人材や資源を活用し、地域づくりを進める。		
実施場所	小中学校及び地域	事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
事業の概要	市内小中学校に設置された「学校運営協議会」で共有された地域で育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを基に、各小中学校での学校ボランティア活動や、地域と学校による協働活動の実践を進める。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加
	相手側	地域学校協働活動への参加、参加呼びかけ、活動の企画・提案、活動後の要望・感想の伝達
	市側	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加、支援者や参加者の募集依頼

【実施結果】

成果目標の達成状況	所期の目的は達成され、一定の成果は達成されている。
協働による効果	子ども達の体験活動が充実し、地域住民の生きがいづくりを創出することに繋がった。
課題・改善点	地域住民への制度周知、民意形成と集約方法の確立

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和5年安曇野市二十歳の集い	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市二十歳の集い実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 社会教育係	

1/8 安曇野市二十歳の集い

【事業の概要】

取組の背景・課題	二十歳の集い対象者で実行委員会を構成し、式典の企画・運営に携わる。		
事業の目的	二十歳という人生の節目を迎える若者を一堂に迎えて祝福するとともに、安曇野を思い合うきっかけをつくるために二十歳の集いを開催する。		
成果目標	二十歳の集いを通じて、特に社会参加と、明るく豊かな社会づくりへの積極的な意識・態度を養う契機とする。		
実施場所	安曇野市総合体育館 (ANCアリーナ)	事業期間	令和4年9月12日 ～令和5年1月8日
事業の概要	9月12日（月） 第1回実行委員会、10月31日（月） 第2回実行委員会、 1月 8日（日） 二十歳の集い		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	二十歳の集いの企画・運営
	相手側	式典運営（司会、開式・閉式の言葉、記念品受領、参加者代表あいさつ）、記念品の決定、二十歳の集いに係るテーマ及び願いの決定
	市側	会場設営及び撤収、資料印刷、広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分達成できた。
協働による効果	二十歳の集い対象者が主体となった式典運営ができ、社会参加の契機となった。
課題・改善点	実行委員応募者数について（広報での募集をするが応募がなく、市内中学校出身者で生徒会役員へお願いしている。）

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市総合芸術展		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市総合芸術展実行委員会		
	市側	教育部 生涯学習 各地域公民館 社会教育係		

総合芸術展展示会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	合併後、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化をとおしての地域づくりを考える機会の創出が必要であった。		
事業の目的	安曇野市公民館と協力して、市内で芸術文化に親しむ皆さんの作品を一堂に集め、展示する場を設けることにより、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化をとおしての地域づくりを考えることを目的とする。		
成果目標	令和3年度来場者実績（498人）を上回る来場者数を目標とする。		
実施場所	豊科交流学習センター	事業期間	令和5年3月9日～3月17日
事業の概要	各地域文化祭に出展された作品のなかから選出されたものを一堂に集めて展示をし、芸術・文化をとおしての地域づくりを進める。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	総合芸術展の運営・企画全般の検討と実施
	相手側	総合芸術展出品作品の選定、広報
	市側	総合芸術展の広報用ポスター・チラシ・DMハガキの作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	令和4年度来場者実績は661人となり、成果目標を十分達成できた。
協働による効果	実行委員、地域公民館、社会教育係の協働による相乗効果により昨年を上回る来場者数となった。
課題・改善点	若い世代の出品者および観覧者を増やすことが必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		童謡祭り		
協働の形態		1. 共催	2. 事業協力（協定）	
		3. 実行委員会	4. その他（ ）	
実施団体	相手側	童謡祭り実行委員会		
	市側	教育部 生涯学習課 豊科生涯学習係		

作詞作曲コンクール表彰式記念写真

【事業の概要】

取組の背景・課題	合併後、町で行っていた事業を、合併後、実行委員が事業を継承し続けている。		
事業の目的	豊科出身の詩人でドイツ文学者だった藤森秀夫先生の業績を顕彰し、童謡の心を絶やすことなく伝え、子どもたちに良い音楽に触れる機会を提供する。		
成果目標	市内の小中学生を対象に作詞作曲コンクールを開催し、童謡祭りで表彰を行った。地元演奏や招待演奏を行う。（令和4年度はコロナ禍により演奏会中止）		
実施場所	豊科公民館	事業期間	4月1日～3月31日
事業の概要	市内の小中学生からの応募により作詞作曲コンクールを開催、童謡祭りにおいて表彰し、藤森秀夫先生の業績を顕彰しつつ、「子どもに良い音楽を」と願ってこどもの日に童謡祭りを開催している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	企画運営、予算管理、ポスター張り出し、学校とのやり取り
	市側	記念品等の発注、会議資料等の作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	新型コロナウイルス感染防止の観点から子どもにも配慮し、招待演奏と地元合唱団体の演奏は中止し、コンクール受賞者の表彰を主とした規模を縮小の開催になったものの、第59回の童謡祭りを開催することができた。
協働による効果	詞作曲コンクールをはじめイベント当日の会場準備等についてご理解いただき積極的に運営にかかわっていただくことができた。
課題・改善点	コロナ禍において中止（令和2年度）、規模縮小の開催（令和3-4年度）が続き、実行委員会委員の高齢化や作詞・作曲コンクール応募数の減少もみられる。開催日やイベントの内容そのものを見直しを図り、協働による事業目的の達成に努める必要があると考える。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		いいまちサロン		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	明科いいまちつくろうかい！		
	市側	教育部 生涯学習課 明科生涯学習係		

コンサートの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	明科地域は、高齢化や独居老人の増加に伴い、地域とのつながりが希薄になってきている。		
事業の目的	「交流、親睦、学び」を目的とする。		
成果目標	高齢化社会に向けての健康づくり、絆づくり、生きがいくりの増進を図る。		
実施場所	明科地域	事業期間	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
事業の概要	毎月テーマを決め、お茶を飲みながら気軽に参加できるサロンを4/26、5/24、6/28、7/30、10/25、12/9、1/28、2/23、3/25、最終火曜日を基本に開催。 コンサートやアコーディオンにあわせて懐かしい歌を歌ったり、里山、食と農、明科の考古学、子育ての仕方といったテーマで講演会を開催しました。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	いいまちサロンの開催
	相手側	企画立案、準備、当日の運営等
	市側	会場手配〈明科公民館〉、参加申込の受付、広報掲載

【実施結果】

成果目標の達成状況	達成できた。
協働による効果	役割分担により効果的にサロンを開催することができた。
課題・改善点	公民館の貸館予約が7月より2か月先まで可能となったため、講師等の日程調整により会場の確保が難しくなる場合がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		堀金のお宝発見講座		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	ふるさと堀金を楽しむ会		
	市側	教育部 生涯学習課 堀金生涯学習係（堀金公民館）		

6/19 仏像の現地見学会

【事業の概要】

取組の背景・課題	相手側は堀金の歴史や自然・文化・人物のすばらしさを地域の大切な宝ものとして楽しむ活動（講演会等）をしていたが、多分野に渡る講演会に会員以外のより多くの人に参加していただけるよう、市側が広報をすることになった。		
事業の目的	地元住民にも知られていない地元の歴史・文化財・自然など「堀金の宝」を再認識していただく。		
成果目標	地域に対する理解を深めていただく。		
実施場所	堀金公民館	事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
事業の概要	講演会 12回（4/16 虫の目から見た自然、5/16 原始から古代、6/20 仏像、7/19 グリーンカーテン、8/7 常念岳からエベレスト、9/20 用水堰、10/17 明科から見た堀金、11/15 烏川山入会慣行、12/20 岩原城、1/16 道祖神と大黒天、2/14 戦争の頃のこと、3/21 雑誌信濃不二から）、現地見学会 2回（6/19 仏像、9/18 用水路）		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	講演会の企画・運営
	相手側	講師の手配、講演会司会進行
	市側	広報、会場提供、資料印刷

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分達成できた。
協働による効果	多分野に渡る講師の選定、講演会等への多数の参加者
課題・改善点	令和5年度まで計画されている講座の、6年度以降の在り方。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市ミュージアム活性化事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市ミュージアム活性化事業 実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

あづみの学校ミュージアムの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内にある公立館と私立館が連携し、一体となって学校や地域との関りを積極的に作っていく。研修等を通して職員同士の資質向上を目指したい。		
事業の目的	市内に点在する美術館・博物館が連携して事業を行うことで、地域文化振興の核としての役割を果たし、安曇野市の一体感の醸成に寄与すること。		
成果目標	今年度計画した7つの事業の実施		
実施場所	市内各館	事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
事業の概要	(1) オンラインギャラリートーク (2) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー2022 (3) あづみの学校ミュージアム (4) 連続美術講座 (5) 美術館博物館職員等研修会 (6) 信州大学連携 (7) ミュージアムサポーター		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	実行委員会、専門部会
	相手側	実行委員会、専門部会
	市側	事務局、専門部会

【実施結果】

成果目標の達成状況	実施済み。
協働による効果	公私館の共通課題を、より大きな規模で事業を実施しながら解決できる。
課題・改善点	双方の業務量や主体がどちらにあるかを考え、事業計画をする必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第31回信州安曇野能楽鑑賞会		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	信州安曇野薪能実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

実施の様子（能 松風の一場面）

【事業の概要】

取組の背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市名誉市民で観世流能楽師の青木祥二郎氏の顕彰をする。 ・上質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。 ・文化資源を活用して、観光振興に協力する。 		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・格調高い能楽公演の実施を通して、安曇野市名誉市民で観世流能楽師として重要無形文化財保持者の栄誉を受けられた故青木祥二郎先生（安曇野市明科中川手出身）の業績を顕彰。 ・安曇野市の芸術文化の向上 ・観光振興 		
成果目標	来場者数 420人		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	令和4年8月20日（土） 午後2時～午後5時45分
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・能楽の公演（舞囃子：熊坂 能：松風見留 狂言：茶壺 半能：山姥） ・能楽を学んでいる子どもたちの発表 ・公演のための準備や資金調達 		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	・能楽鑑賞会の実施、事業のPR
	相手側	・事業についての企画立案・審議・予算執行、会計処理、チケット販売、広告協賛金依頼、当日の運営
	市側	・補助金の交付、施設の貸し出し

【実施結果】

成果目標の達成状況	459人の入場
協働による効果	・広告協賛金の募集や能楽に関する知識の提供など実行委員が持つノウハウを活用できた。また、動員や企画立案にかかわることで、情報が拡散し能楽鑑賞会の実施の機運が高まった。さらに能楽を学ぶ子どもたちの発表の場を提供できた。
課題・改善点	・近年はホール能だが、薪能の実施をしたい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他 （刊行委員会 市は事務局を担当）		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育部文化課 文化振興担当		

安曇野文化 43号～45号

【事業の概要】

取組の背景・課題	三郷地域で刊行されていた「三郷文化」が平成23年夏号をもって創刊30年を迎えるにあたり、区切りをつけ、以降「安曇野文化」として刊行することを検討し、平成23年5月に安曇野文化刊行委員会が発足。平成23年秋からの「安曇野文化」創刊に向け「安曇野文化」編集委員会を組織し、平成23年11月30日に創刊号を発行した。		
事業の目的	安曇野の恵まれた文化を広く見つめ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的に季刊誌「安曇野文化」をつくる。		
成果目標	購読者数…三郷文化最終号 約460名、安曇野文化創刊号 約500名（平成23年12月9日現在）となっており、令和5年1月現在で437名である。購読者数を500名まで増やしたい。		
実施場所	貞享義民記念館（編集室）	事業期間	
事業の概要	「安曇野文化」発刊 第43号(春号)令和4年5月31日 第44号(夏号)令和4年8月31日 第45号(秋号)令和4年11月30日 第46号(冬号)令和5年2月27日 刊行委員会は年度当初に開催し、年4回の発行に合わせて編集委員会を開催する。 編集委員会は執筆者の選定からはじまり各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	・刊行委員会、編集委員会の開催・購読者数増に向けての取り組み
	相手側	・各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	・事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規の購読者も獲得しているが、従前の購読者の高齢化により購読停止とほぼ同数であり、全体としての購読者数はほぼ横這い状態である。 地元書店等での販売も行っていることから更なる販路を拡大したい。
協働による効果	三郷地区に限定されていた内容が市全域を扱うようになり、編集委員、執筆者とも市全域から募り、それぞれの地域で活動頂いている。 委員の活動により購読者が市内全域に広がり、市内外の方々に、安曇野について広く知っていただくことに繋がった。
課題・改善点	購読者増

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第18回あづみの公園早春賦音楽祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

過去のあづみの公園早春賦音楽祭

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の自然・風景を活かした国営アルプスあづみの公園において、音楽による社会教育の促進や観光振興を図りたい。		
事業の目的	市民参加による音楽祭を開催し、安曇野に生まれた「早春賦」をはじめ、地域に歌い継がれている歌を通して、地域文化と安曇野の良さを知っていただき、地域の振興に寄与する。		
成果目標	入場者数目標を定めず、実施内容を検討し、開催を実現させる。		
実施場所	国営あづみのアルプス公園 (堀金穂高地区)	事業期間	令和4年10月2日
事業の概要	会場設営：ステージ設営・運営・撤去、物品準備、来園者の誘導・案内 イベント運営：当日の人員配置、役割分担の調整 学校との調整：出演する学校との調整、バス・楽器手配 広報：広報物による、出演者・ボランティアの募集、開催告知		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	会場設営、当日の運営
	相手側	実行委員会の会議開催、当日までの各団体の連絡調整
	市側	補助金交付による資金援助、運営補助

【実施結果】

成果目標の達成状況	新型コロナウイルス感染症のまん延により中止したため、達成せず。
協働による効果	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響下で、協働で取り組むことにより学校関係、市民が参加できる方法を最大限検討できた。
課題・改善点	感染症対策を講じながら、可能な限り開催が実現できるよう、綿密な計画と対策の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野さんぽ市 2022		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野さんぽ市実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

当日の出展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域で活動するものづくり作家（アマチュアも含む）と使い手側の市民とが直接顔を合わせ、交流する機会を創出することを目的とした事業。		
事業の目的	地域に根付いた活動をするものづくり作家と、使い手側とが交流できる場を作る。また、会場である穂高交流学习センターを多くの市民に利用してもらい、交流の場としての役割を果たす。		
成果目標	人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。		
実施場所	安曇野市穂高交流学习センター「みらい」	事業期間	令和4年5月21日～5月22日
事業の概要	安曇野市を中心に活動するものづくり作家や職人たちが出展者となり、手作り品の展示・販売・ワークショップを行う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営、来場者受付、イベント告知、新型コロナウイルス感染症対策
	相手側	事務局（参加者募集、問い合わせ対応、支出管理）、ブース配置決め など
	市側	施設の貸出し、敷地内の管理 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	例年より小規模での開催となったが、ものづくり作家や職人たちと市民が交流する場や機会をつくり出すことができた。
協働による効果	市民と行政が連携することで、交流の場の創出と新型コロナウイルス感染予防対策を両立し事業を実施することができた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> 出展者に搬入と搬出の時間を徹底し、開催当日に混乱がないよう努める。 コロナ禍が落ち着いた場合火気を扱う飲食系の出展（店）について検討する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業 実行委員会		
	市側	教育部 文化課 博物館担当		

事業により刊行した冊子「豊科の宝」

【事業の概要】

取組の背景・課題	当実行委員会では、平成 31 年度（令和元年度）から毎年度、市内の地域ごとに歴史文化遺産をテーマにした冊子を刊行している。これまでに明科地域、穂高地域、豊科地域についての冊子が発行され、本年度は三郷地域に関するものを刊行する。		
事業の目的	冊子の刊行や講座の開催等により、安曇野市内の各地域の歴史文化遺産の魅力を市民にわかりやすい形で発信し、地域の歴史文化遺産への関心を高めてもらうとともに、地域おこしの材料を提供する。		
成果目標	「宝」シリーズ冊子の刊行及びそれを生かした講座等の開催		
実施場所	安曇野市内	事業期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 2 月 28 日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市豊科郷土博物館や安曇野市教育委員会の職員等の共同執筆により、各地域の歴史文化遺産を紹介する一般向けの冊子を刊行する。 ・執筆に伴う調査成果をもとに、公民館及び社会福祉協議会等と共働して、地域住民を対象とした講座を実施する。 		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	執筆、編集作業
	相手側	執筆に向けた資料の調査、講座の講師
	市側	印刷業務、文化庁補助金事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	令和 5 年 2 月末をもって達成の見込みである
協働による効果	本年度の刊行予定である冊子「三郷の宝」の刊行、配付
課題・改善点	活用した講座等の開催の回数が少ないため、より積極的に実施したい。

発行日：令和5年3月

編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進担当（本庁舎2階4番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176